



田んぼの虫

おす雄が子育てをする虫（その2）

コオイムシ（子負い虫）って知っていますか。

この虫も、以前は水田や水のよどんだ小川などでよく見かけました。梅雨のころになると、背中に米粒のようなものをたくさん乗せているので、興味を持って家で飼育したものです。ふだんは、水草の陰に隠れていますが、時々水面に背中を出して空気にあてています。10日もすると、親と同じかたちの小さな幼虫が卵の中から出てきます。「ワーイ、お母さんの背中で赤ちゃんになったんだ」と大喜びをした思い出がありますが、あとで卵を背負っていたのは雄だと知ってびっくりしました。

タガメも雄が子守をしますが、コオイムシは卵を背中に背負って生活するのですから、羽を広げることも飛ぶこともできず、泳ぐ速さも遅くなりとても大変です。

古い本を読んでいると、京都では「昼飯持ち」「飯盛り」と呼ぶと書いてありました。背中の卵の集まりを、ごはん粒に見立てたのですね。おもしろい発想と思いませんか。

みなさんも、自分なりの名前をつけてみてはいかがでしょうか。



コオイムシ（オス）



コオイムシ（メス）